

レッスン7

商 品

しょう ひん



本文

Main Text

最近いろいろな新しい野菜が出ている。戦後、日本人の食生活が洋風になり、肉食が多くなったので、野菜も肉に合うものが必要になり、新しい野菜が次々に開発されている^{*}そうである。

たとえば、サニー・レタスという野菜は、十数年前に、肉料理に合うものとして開発された。カブとかけあわせた新しいハクサイは、やわらかくて、なまで食べることができる。また、ナバナという、菜の花の葉の部分だけを^な使う新しい野菜も最近話題になっている。

新しい野菜の開発には、野菜を作る農家の人たちと、それを買って市場に出す人たちとの協力が^{きょうりやく}必要となるが、その協力は容易^{ようい}ではない。市場に出す人は、「味がよいだけでなく、^{*}外観も^{がいかん}き

れいでなければいけない」と言う。同じ大きさの袋に入れるために、たとえばナバナは長さ二十センチ、それより長いものや短いものは商品にならない。

農家の人たちは、市場に出すことができなければ収入にならないので、あらかじめ長さの合わないものを捨てる。しかし、「味に変わりはないのに、なぜ捨てる^すなければいけないのか」という疑問^{ぎもん}を感じるようである。

農家の人たちは、先祖代々の土地で作った野菜に対して、生きものに対する^{*}ような愛情^{あいじょう}を持っているに違いない。しかし現代の農作物は工業品であり商品なのである。こうした変化は、時代の流^りれではあっても、農家の人にとってはさびしいことかもしれない。

レッスン8

登校拒否

とう こう きよ ひ



本文

ほんぶん

Main Text

子どもの登校拒否とうこうきよひがよく問題になる。ふつうの子どもでも学校に行きたくない日はある。しかし登校拒否の場合は、ただ感情的かんじょうてきに行きたくないのではなくて、病気に近い状態なのである。カウンセリングが必要であるし、時には入院することもある。

このような子どものカウンセリングをしてきたある心理学者が、新聞に次のようなことを書いていた。登校拒否は低血糖症ていけつとうじょうと関係が深いふか。低血糖症の人は、つかれやすく、気力がなく、集中することができない。頭痛がする。夜よくねむれない*。朝おきられない*。感情をおさえる力がないので、すぐこわがったりおこったりする。人に対して暴力を用いる。このような症状しょうじょうは、登校拒否の子どもようすの様子と同じである。

実際に検査してみても、登校拒否の子どもはほとんどが低血糖症だった。登校拒否の問題は、このような医学的いがかくてきな立場から考えることも必要であろう*、という意見であった。

つかれた時あまい物を食べると元気になる。お茶の時間に、親しい人といっしょにあまい物を食べるのはたのしい。ところがそのあまい物を、食事を十分にとらないで食べすぎると、低血糖症ていけつとうじょうになりやすいそうである。

しかし、スーパーに行けばきれいなおかしが並んでいる。テレビでは、人気スターがおいしそうにおかしを食べてみせる。現代の子どもたちは、あまい物の洪水こうずいの中で生活している。この洪水に対する強力な対策たいさくが必要である。